

4 児童生徒質問紙調査結果について

自己有用感の醸成について

「自分には、よいところがある」と回答した小学校の児童の割合は76.7%、中学校生徒の割合は70.1%でした。平成28年度の回答と比較すると、小中学校ともに上昇していますが、全国平均より少し低くなっています。

(小学校 H 28 72.8% → H 29 76.7%)

(中学校 H 28 67.6% → H 29 70.1%)

また、小学校では「先生は、よいところを認めてくれている」と回答した児童の割合は全国平均と比べ0.7%高く、中学校の生徒でも全国平均より1.3%高くなっています。平成28年度の回答と比較すると、小中学校ともに上昇しており、特に小学校では4.9%上昇しています。

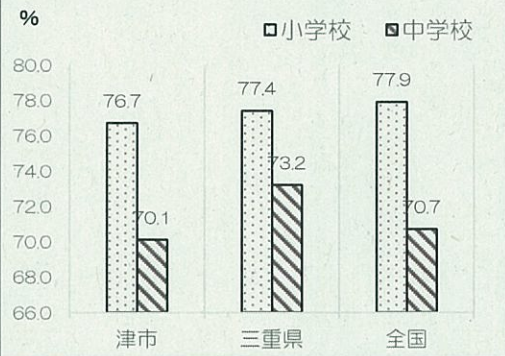
(小学校 H 28 81.8% → H 29 86.7%)

(中学校 H 28 80.5% → H 29 81.7%)

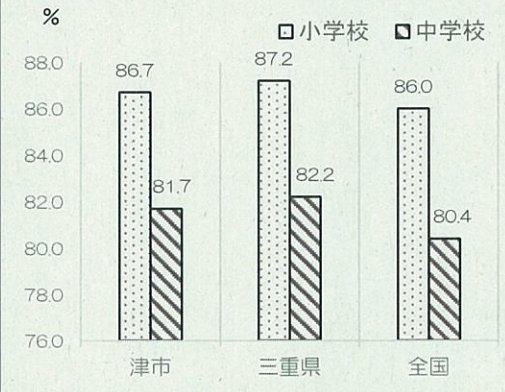
さらに、「人の役に立つ人間になりたい」と回答した小学校の児童の割合は93.3%、中学校の生徒でも93.3%でした。三重県や全国を上回る結果でした。

平均正答率とこれら3つの質問をクロス集計でみると、「自分によりよいところがある」「先生は、よいところを認めてくれている」また「人の役に立

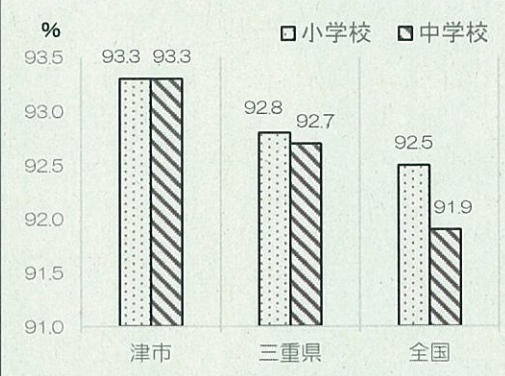
【6】自分によりよいところがある



【38】【40】先生はよいところを認めてくれる



【53】【55】人の役に立つ人間になりたい



つ人間になりたい」と回答した児童・生徒ほど平均正答率は高くなっており、自己肯定感と学習結果には関連がみられます。

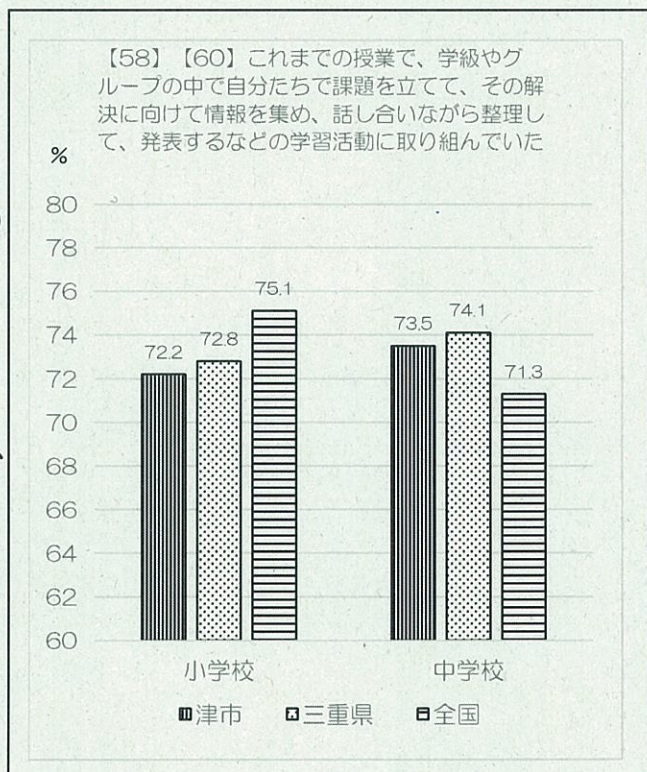
小中学校ともに、先生からよいところを認められているという実感はあるものの自分の良いところを自覚できていない子どもたちがいます。子どもたちの自己肯定感を育むには、学校における教育活動全体で子どもが達成感や満足感を味わい、周りから認められるような活動を盛り込んでいくことが大切です。その子なりのめあてや目標を考え、課題を達成するまでの過程を子ども自身が考え、実行することを適切に評価し、次へのステップにつなげる等、教師の温かい見守りやサポートが必要です。その際、子どもたちが努力した点や工夫した点等を見逃さないよう、子ども本人に返し、子どもが「わかってもらえた。」「次はこれにチャレンジしよう。」といった次への意欲を持つような評価が必要です。また、学校だけでなく家庭や地域社会と連携し、子どもの思いに寄り添い、子どもが主役となって活躍できる場をできる限り多く設定し、その中で多くの成功体験が得られるようにすることも大切です。

話し合う授業について

小学校では「児童の間で話し合う活動をよく行っていたと思う」と回答した児童の割合は、84.6%と全国平均並みであるのに対し、中学校の生徒の割合は89.1%と全国平均より7.9ポイント高くなっています。

また、小学校では「学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んだ」と回答した児童の割合は、72.2%と全国より2.9ポイント低くなっていますが、中学校の生徒の割合は73.5%と全国平均より2.2ポイント高くなっています。

「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表した」と回答した小学校の児童は61.4%で、全国平均より3.5ポイント低く、中学校の生徒においては、52.6%と全国平均より5.3ポイント低くなっています。



さらに、「道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいた」と回答した、小学校の児童は77.8%で、全国平均より0.7ポイント低くなっていますが、中学校の生徒は79.6%と全国平均より3.6ポイント高くなっています。

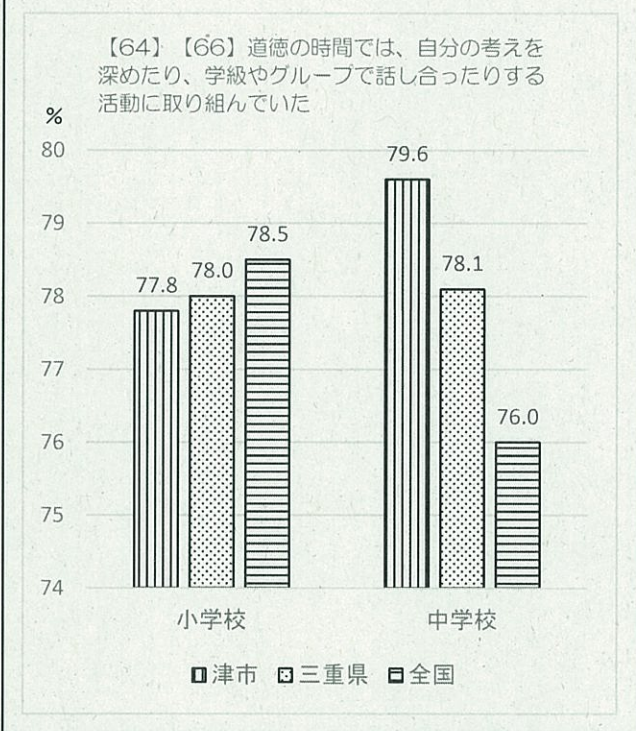
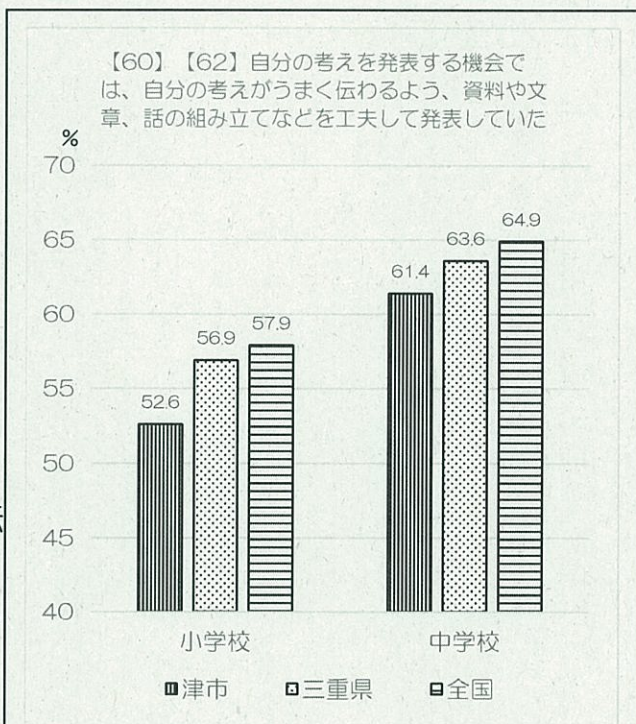
以上の結果から、小学校、中学校ともに『授業の中で生徒・児童間で話し合う機会がある』という実感はあるものの、『自分の考えがうまく伝わるような工夫をして発表すること』については、課題が見られます。

授業の中で『話し合う活動』だけにとどまらず、小学校では、自分たちで課題を立てて、問題解決に向け情報収集や話し合いをして発表につなげる手立てを考える必要があります。

例えば、小学校では、調べたい課題をグループで見つけ出し、課題解決のために、資料から情報を集めます。そして、その情報をもとにグループで話し合い、自分の考えを整理して発表する機会を積極的に取り入れていくことが大切です。

中学校では小学校からの学習を大切にして、自分の考えを相手に分かりやすく伝えられるよう、考えていることをメモに書き留めるなど、伝えたいことを順序立てて整理し、発表する機会を多く取り入れていくことが大切です。

また、道徳の時間では、自分の考えを深めることができる質の高い課題の設定と、どのタイミングで、どのような方法で話し合うのか、授業の展開等について検討していく必要があります。



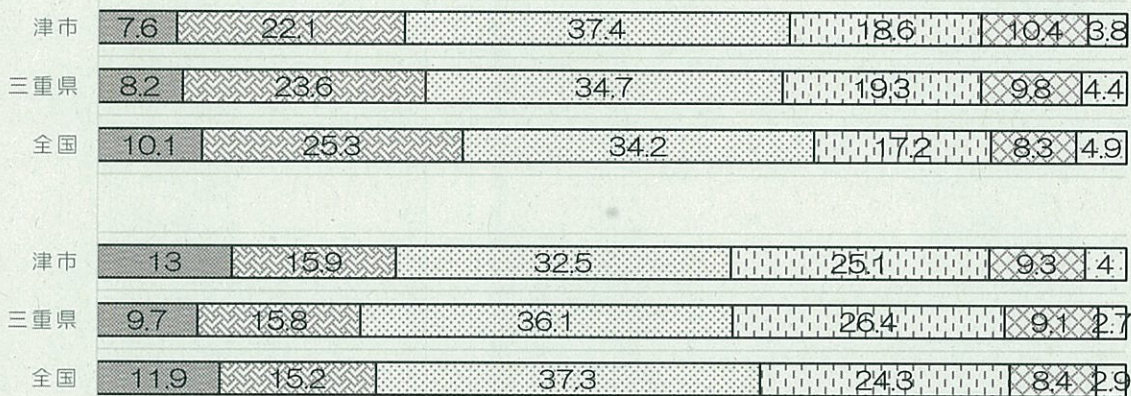
家庭生活について

小学生の平日における家庭学習の時間は、2時間以上の割合が全国を上回っています。また、休日についても、4時間以上の割合が上回っている一方、全くしない割合も全国平均を上回っています。

中学生の平日における家庭学習の時間は、2時間以上の割合が全国平均を下回っており、2時間以下で上回っています。また、休日についても、同様の傾向があります。

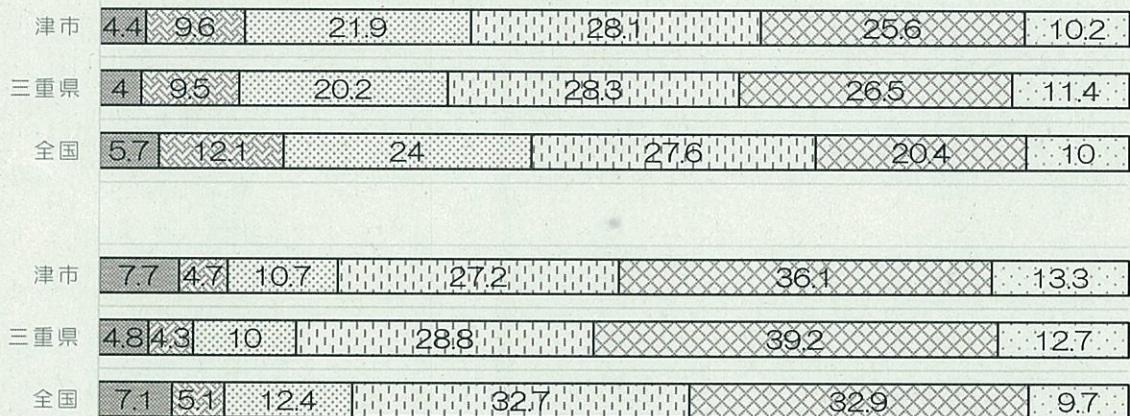
家庭学習の時間 平日（上：中学生 下：小学生）

3時間以上 2時間以上3時間以下 1時間以上2時間以下
 30分以上1時間以下 30分以下 全くしない %



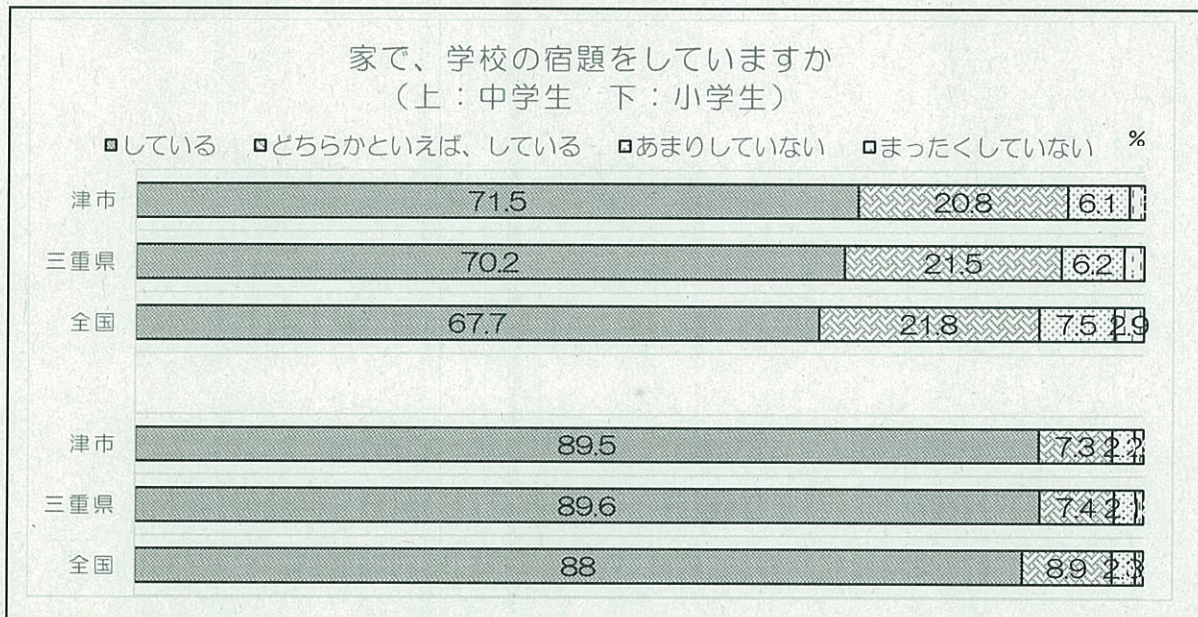
家庭学習の時間 土日（上：中学生 下：小学生）

4時間以上 3時間以上4時間以下 2時間以上3時間以下
 1時間以上2時間以下 1時間以下 全くしない %



家で、宿題をしている割合は、小学校が全国平均とほぼ同じ、中学校は全国を上回っています。

家庭での学習時間と関連させると、津市の中学生は家庭において全国よりも時間は短いですが、宿題をしていることが分かります。



また、家庭における予習復習の状況は、小学校の復習状況以外は、全国を上回っています。予習復習をしている児童生徒と、していない児童生徒の正答率の開きを見ると、復習をしているか否かにおける正答率の開きが見られます。このことから、予習も大切ですが、定着を図る意味では復習が大切であると考えられます。

		正答率			
小学校		国語A	国語B	算数A	算数B
予習を	している	76.4	61.3	81.5	48.7
	どちらかといえば、している	74.2	57.6	77.2	45.6
	あまりしていない	73.2	56.9	75.9	43.9
	全くしていない	71.1	54	74	43.6
復習を	している	77.1	61.3	81.6	48.9
	どちらかといえば、している	75.3	59.7	78.8	46.2
	あまりしていない	72.7	56.1	75.5	43.8
	全くしていない	68.9	51.4	71.2	41.9
中学校		国語A	国語B	数学A	数学B
予習を	している	78.3	72.2	70	49.8
	どちらかといえば、している	76.9	70.7	66.6	47.4
	あまりしていない	78.1	73.1	67.7	49.2
	全くしていない	75.9	68.7	62.6	45
復習を	している	79.9	74.7	72.7	52
	どちらかといえば、している	79.4	74.1	69.3	50.9
	あまりしていない	76.4	70.8	64.9	45.7
	全くしていない	73.1	64.6	59.1	42.4

津市の小中学校の一日当たりのテレビゲームの利用時間は、全国平均を上回り、長時間利用している状況が見られます。特に津市の中学生の家庭学習の時間は全国平均より少ないこともあり、テレビゲームやスマートフォンの利用について、今後も考えていく必要があります。

